



ふるべー



11月16日(土)から受付 令和2年度  
保育園・学童クラブ入園・入会申し込み… 2面  
えんとつフェスティバル2019…… 4面  
市民スポーツまつり…… 8面



# 火が身近にあった時代

家にガス設備が整う前の時代の昭和30年ごろまで、小平の多くの家では、かまどやいろりなどで火を使う生活をしていました。こうした火が身近にあった時代、多くの家ではおかまさま(火の神様)をまつる風習がありました。

昭和32年ごろ、いろりの間 小平市立図書館所蔵、飯山達雄氏寄贈

## かまどやいろりを使う生活

昭和30年ごろまでの多くの家では、かまどやいろりを使って生活をしていました。現在のガスコンロのように、簡単に着火して火を使うことができなかつたため、火の管理は生活の一部でした。

また、家屋には煙を逃す煙突はありませんでした。これは、火から出る煙が家屋の防腐・防虫に効果があったため、木造(かやぶき屋根)の家でも長く住むための工夫です。当時の家の中は、常に煙の香りがしていました。

### 身近な危険

生活の中心に燃える火があったため、火事や子どもがいろりに落ちてやけどを負うなど、火が原因の事故が多く起きていました。そのため、火は丁寧に扱われていました。



昭和32年ごろ、へっつい(釜)でご飯炊き 小平市立図書館所蔵、飯山達雄氏寄贈

### かまど

かまどは、土間(地面が土の台所)にあり、ご飯を炊く、食事の煮炊き、お湯を沸かすなどに使われていました。火加減の調節は、まきの量や位置を調整したり、火に風を送ったりしなければならず、技術と労力が必要でした。

### いろり

いろりは、家族が集まる居間などにありました。煮物や汁物などの調理、暖房、いつでも使える火種として使われ、一年中いろりには火がたかれていました。小平ふるさと村の平日の開館日には、いろりに火を入れていたので当時の様子を見ることができます。



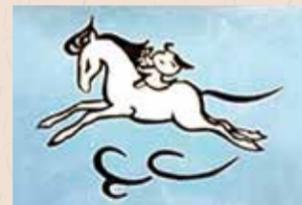
昭和32年ごろ、いろりで一服 小平市立図書館所蔵、飯山達雄氏寄贈

## 火の神様 おかまさま

火は神聖なもので、その火を扱うかまどは神聖な場所として大切にされていました。そのため、かまどがある土間に神棚を作り、おかまさまをまつっていました。おかまさまは火の神様で、36人の子どもがいると言われ、どの家でもまつられていました。

### おかまさまとだんご

10月30日、小平ではおかまさまにだんごを供える風習があります。これは、おかまさまが出雲大社に旅立つ日に、旅立ちの土産に持たせるだんごで、人数分の36個のだんごを作り、土間の神棚に供えました。



出雲大社に向かうおかまさま 大沼図書館シンボルマーク

10月末に吹く冷たい風は、おかま風とも呼ばれています。

### ものび 物日(行事)を大切にす文化

だんごをお供えした翌日は、家族でだんごを焼いて食べました。こうした行事は、物日と言いました。物日には、特別な日にしか食べられなかつただんごやまんじゅう、うどんなどを食べたため、当時の人々は年間の行事を大切に、楽しみにしていました。また、種まきや収穫など農作業の目安にもしていました。



土間のかまどと神棚



お供えするだんご

数は、馬方(うまかた)の分を含めて38個にする家庭もあります。また、おかまさまが一度家の様子を見に帰ってくる中帰り(11月15日)にだんごを供えたり、帰ってくる日(11月30日)にうどんや赤飯を供える家など、さまざまな風習があります。

## 小平ふるさと村

### ◆小平糰うどん 9・10月の営業日

昔ながらの雰囲気の中で、郷土料理のうどんを食べませんか。  
営業日 9月22日・28日・29日、10月の土曜・日曜日  
午前10時から  
※団体予約(10人~30人で日曜日のみ)の利用は午後1時30分以降です。利用日の10日前までに問合せ先へ申し込んでください。

問合せ 武蔵野手打ちうどん保存普及会・江連 ☎042(343)5153

### ◆おかまさまの展示

旧神山家住宅主屋のかまどにだんごを供えます。

とき 10月22日(火・祝)~30日(水) 問合せ 小平ふるさと村 ☎042(345)8155



手打ちうどんが味わえます